

レフェリーから競技審判上の確認と連絡

本大会は、令和8年度（公財）日本バドミントン協会が定める競技規則、大会運営規程、公認審判員規程、および各連盟の申し合わせ事項にのっとり運営します。特に、次のことに注意してください。

<競技規則>

1 サービス(第9条)

- 1-1(1) サーバーとレシーバーがそれぞれの態勢を整えた後は、両サイドともサービスを不当に遅らせてはならない。
- 1-1(2) サーバーのラケットヘッドの後方への動きの完了した時点が、サービスの始まりを不当に遅らせているかどうかの判断基準となる。
- 1-1(6) サーバーのラケットで打たれる瞬間にシャトル全体がコート面から 1.15m以下でなければならない。
(シャフトが下向きでなくてもフォルトではない)
- 2 それぞれのプレーヤーのサービスの態勢が整った後、サーバーのラケットヘッドの前方への初めての動きが、サービスの始まりである。

2 プレーの継続、不品行な振舞い、罰則(第16条)

- 3 プレーの中断 プレーヤーの責任でない状況によって必要とされるならば、主審は必要と思われる間、プレーを中断することができる。
- 4 プレーの遅延 プレーヤーはどんなことがあっても、体力や息切れを回復できるように、または、アドバイスを受けるためにプレーを遅らせてはならない。
- 5 アドバイスとコートを離れることに関して
 - (1) シャトルがインプレーでない場合で、プレーヤーがサービスとレシーブのために位置につくまでの間に限り、プレーヤーはマッチ中、アドバイスを受けることができる。
 - (2) プレーヤーはインターバルを除き、主審の許可なしに、マッチ中、コートを離れてはならない。もしそのような行為をした場合は、遅延行為と見なされる。
- 6 プレーヤーは次の行為をしてはならない。
 - (1) プレーを故意に遅らせたり中断したりすること。
 - (3) 相手に対して下品で無礼あるいは不適切な態度、言動
*見苦しい服装でプレーしたり、審判員や観客に対して横柄で不品行な振る舞いをしたりすること。
 - (4) 競技規則を越えた不品行または不快な行動
*ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩くとか、耳障りな掛け声や叫び声を発することなど。
- 7 違反に対する処置 (1)① 警告(イエロカード) ②③ フォルト(レッドカード) (2) 失格

<大会運営規程>

- 3 服装については、第23条・第24条によるものとする。また、社会人・大学生は所属名、高校生は学校名、小中学生は所属名と氏名の背面表示またはゼッケン(4点留め)をすること。その際、文字列各行の大きさは、それぞれ6~10cm、横30cm以内とする。
- 4 個人戦において、マッチを棄権したものは、それより後の同一種目及び同大会にエントリーしている他の種目全てにおいて出場できない。ただし、ダブルスの場合、棄権したプレーヤーのパートナーは除くものとする。また、正当な理由をもった棄権行為としてレフェリーが判断した場合、レフェリーの判断により、棄権後の他のエントリー種目に出場することを認めることがある。
- 5 審判員の判定に対して疑問のある場合は、次のサービスがなされる前に、個人戦では当該プレーヤーが、団体戦の場合は当該プレーヤーと監督に限り質問することが認められる。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。(第37条)
- 6 競技進行の都合で、試合時間やコートを変更する場合がある。(付録10-1「レフェリーの任務」参照)
- 7 表彰式については、原則として第1位~第3位まで、競技終了後の閉会式で行うものとするが、第3位については、帰郷時間とか、交通事情等でやむを得ない理由がある場合は、閉会式前に授与式を行ってもよい。しかし、少なくとも第2位までは、その大会の開催地に配慮し、閉会式の授与式に参加することを義務づける。(付録8-18「表彰」参照)

<公認審判員規程>

8 マッチ前・マッチ中・マッチ終了後の注意事項(第5条)

- 2-(2)ウォームアップは、主審が審判台にすわったところから始まり、マッチ開始時の「(ラブ オール)プレー」のコールで終わる。その際、主審は「レディー トゥ プレー」をコールし、プレーヤーがマッチ開始の準備をするように指示する。
- 6-(7)各ゲーム間のインターバルでは、プレーヤーがエンドを替えた後どちらのサイドも認められたコーチであれば2人までコートに入ってきてよい。そして、主審が「20 秒」とコールしたらコーチはコートを離れなければならない。
- 9-⑤ プレーヤーが言葉やジェスチャーでサービスジャッジまたは線審に影響を与えたり、または脅迫しようとしている場合、そのような行為は不品行な行為として、上記〈競技規則〉2-7を適用する。
- 9-⑥ プレーヤーが汗をかき、その汗を払い、散らしたりした場合、またはそれ以外の行為でコートやその周辺を汚している場合、そのような行為は不品行な行為として、上記〈競技規則〉2-7を適用する。
- 9-⑦ ラリー後、プレーヤーが過度に、喜びを表現したり、また、その行為が無礼で、侮辱的(過度に握った拳を挙げる、相手の方に向かって叫ぶ、興奮してシャツを脱ぐ)なものであった場合、そのような行為は不品行な行為として、上記〈競技規則〉2-7を適用する。
- 12-(2)コーチは、許可されたインターバルの間を除き、マッチ中、指定された席に着席するものとし、コートのそばに立ってはいけない。もし、コーチがほかのコートに移動したければ、必ずシャトルがインプレーでない時にすること。
- 12-(6)コートサイドで、コーチはマッチ中、電子通信機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等)を使用してはならない。
- 12-(7)コーチにより、プレーが混乱させられたり、相手サイドのプレーヤーの注意がそらされたりしていると判断した場合は、「レット」をコールする。そして、そのようなことが再び起こったならば、すぐにレフェリーを呼ぶ。
- 12-(8)コーチは、コートサイドでマッチにふさわしい服装で臨むこと。(運動靴、長ズボン、チームユニフォーム等)。その適否判断は大会レフェリーに委ねるものとする。
- 14 マッチ中にケガまたは病気には、慎重かつ適切に処置しなければならない。必要ならばレフェリーを呼ぶ。もし、出血がある場合は、出血が止まるまで、あるいは傷が適切に保護されるまで、そのゲームの再開を遅らせる。
- 15 マッチ中のコートまたはコート周辺でプレーヤーの電子通信機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等)が鳴ったとき又は、プレーヤーがコート上でこれらの電子通信機器を使用した場合、不品行または不快な行動の違反とみなされ、上記〈競技規則〉2-7を適用する。